



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 波乱相場を「黄金のシナリオ」に変える資産運用法(第5章) 資産運用耐久力の鍛え方

講演：岡本 和久氏
レポーター：赤堀 薫里

投資で最も重要なのは投資耐久力です。資産運用は、始めることよりも続けることの方が難しい。しかし、続けなければ効果が出ないので。長期投資の長旅の中では、三種類の悪魔が出現します。最初に無知という悪魔、次に恐怖という悪魔、そして欲望という悪魔です。そして、その悪魔たちの武器が「市場における価格変動」なのです。



資産運用に失敗する原因は3つあります。一つ目は、株価を追いかけすぎること。投資家の心理は欲望と恐怖の間を激しく往復します。その心理の動きが価格を上下させ大きく変動させます。株価を追いかけまわすことは、その心理を追いかけているに過ぎないのです。だから自分の行う資産運用が株価の変動に影響されないようにすることが大切です。

失敗の2つ目の原因は、短期で儲けようとする事。短期間における企業の成長はごくわずかです。つまり、株式の価値が増えていない状態の中で、参加者間でお金移動するだけなので、儲かるのは取引のあるたびに手数料を取る証券会社だけ。しかし、長期で企業を保有していると、投資対象が成長することで価値が増えていきます。

3つ目の原因は、業界構造の理解が足りないということです。今、上がっている商品は上値が段々小さくなっている。またみんなが買っている商品は、これ以上買う人が減っているのです。つまりそこで儲けるのは難しいということですね。投資のリターンは企業が生み出す付加価値です。販売会社が販売手数料、投信会社が運用手数料、信託会社が保管料、証券会社が売買委託手数料をとります。更に、マスコミへの広告料等も付加価値から出ていきます。付加価値に皆が群が



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

った後の残りが投資家への投資リターンです。いかに必要以上のコストを取られないように細心の注意をするのが重要になります。

このような環境の中で、長期にわたり資産運用を続ける上で必要なことは、資産運用耐久力をつけていくことです。ベンジャミン・グレアムさんの「賢明なる投資家」という本の序文をウォレン・バフェットさんが書いています。内容を要約すると、「生涯を通じての投資で成功するためには、ただ適切で、理解ができる合理的なフレームワークを自分の中にきちんと持っていて、マーケットの変動によってそれが崩れないように、感情を一定に保っていく能力だ」と言っています。その能力とは、まず投資方針書をきちんと書面にすることです。人生を通じての資産運用の長旅の途中では環境が一時的に大きく変化することもあります。そのような時も自分が最初に立てた投資の目的、前提、投資戦略が崩れないようにする最高の方法が投資方針書を書くことです。

自分の資産運用耐久力を強化するために必要な4か条は以下の通りです。

- (1) 合理的な方法であること(理論的に正しくてかつ実証的に有効であること)
- (2) 自分の人生を視野に入れること
- (3) やり方は単純な方法
- (4) やっている本人にとって心地よい資産運用

では、(1) 合理的な方法とは何か。それは、①株式会社、株式と債券の本質を学ぶこと、②木を見るよりも森を見ること、ポートフォリオ理論の本質を学ぶこと、③歴史からマーケットの本質を学ぶことの3つです。

株式市場は常に暴落と暴騰を繰り返しています。時に非常に大きなバブルが発生してそれは崩壊します。ただ、そのタイミングはわからない。でも、長期的に見れば合理的なことは必ず実現しています。暴落も暴騰に惑わされないで合理的なことを続けることが重要なのです。長期で見れば十分に分散された株式ポートフォリオはインフレヘッジになり、更に債券よりも高いリターンを獲得できる。そういう非常に単純なことに確信を持つことです。続けていく上で大切なことは買付け方をフォーミュラ化すること。一番単純に言えば、ドルコスト平均法的なものでもいいでしょう。多くの人が月給の一部を投資することになるので、必然的に定時定額の買付け方になっていくことになります。

その後講演では、人生を視野に入れた資産運用の方法やプロセス、シンプルな投資戦略と管理の方法の解説、また、次週詳しくお話いただける心地よい資産運用について触れました。最後に、岡本さんが選んだ投資の世界における五賢人である「ジョン・テンプレートン卿」、「ウォレン・バフェット」、「ベンジャミン・グレアム」、「チャールズ・エリス」、「ピーター・リンチ」から感銘を受ける言葉のご紹介をいただきました。